

## ●5月27日 植物観察実施

案内した時間に申し込み予定者が全員集まりました。自己紹介をして木津川堤防に進みました。さっそくヘクソカヅラに出会いました。またこの辺り（近鉄の車庫）は今では立派な駅前になっているが造成する前は湿田でガスが噴き出ている秋の稲刈り時期には田舟を使用しなければならない状態だったことを説明しました。また奈良電鉄の時代は馬坂川からの伏流水を取り込んで唯一の水道が使用されて電車が洗われていたことも説明しました。そうした所を過ぎるといよいよ田んぼが表れて農業用水路（今では排水路にもなっている）にでくわし田植えのための用水が貯められ水位が非常に上がっていました。それでも田圃は高くなって地下水をくみ上げての準備が始められていました。以前の農家は足踏み式水車などで水をくみ上げなければならなかったため、学校から帰ると夕方まで水車を踏まされていたのが農家の子供の役割だったことを話しました。この日は講師として光田重幸先生と伊藤千恵子さんが助手として活躍していただきました。



## ●追突事故の現在の処理の進行状況

現在の状況は物損事故として処理を進めているとのことでした。それぞれから診断書が提出されていないのでこうした処理をされています。各人から診断書が提出された段階で人身事故扱いになっていくものと思われれます。出来るだけ穏便な処理で収まることを希望していますが、後遺症の関係で後日のことからしっかり対応をしておいてほしいものです。

## ●国交省木津川出張所長との話し合いでの要望事項をまとめる

今年4月の異動で新出張所長として赴任されてきたようですので里山の会からこれまでの経過を説明し、里山の会としての要望事項をまとめました。

- ① 河川協力団体への協力と理解（木津川希少種植物調査管理業務への協力。木津川での竹蛇籠の設置・竹90本・栗石1トン提供 竹蛇籠の流れ止めの杭打ち用ユンボの協力）
- ② 木津川流域センターの充実を（事務所機能の実現：電話 FAX メール機能） トイレの近代化（洋式化） 流域センターの門扉カギの故障防止
- ③ 魚とり用 用具の貸し出しを（ライフジャケット 投網 たも網 簡易テント 簡易トイレ）。魚とり会場の草刈り（山城大橋の東詰め 普賢寺川の河口 開橋下右岸）
- ④ イタセンパラの復活への取り組み強化（玉水浜三つのワンド 山城大橋の三つのワンド）、9月17日の外来魚対策：魚釣り大会への協力、ワンドのヘドロ除去＝玉水浜・山城橋、通路の確保＝除草作業。
- ⑤ 木津川沿川の各施設の名称看板の設置と管理者名の明示。
- ⑥ 要所にトイレの設置。を申し入れる予定です。

●里山の会が発足しようとしていたころ、農業などの取組に自家用トラックの提供で随分お世話になった城陽市寺田の安田豊さん（83歳）の告別式が5月28日農業関係者の皆さんがたくさんご参集になって行われました。私、山村が友人代表として弔辞を述べさせていただきました。

●自然環境保全京都ネットワークが加盟 17 団体の活動紹介ポスターを作成。

里山の会は 17 番目に紹介されています。京都市内のスーパー「イオン」で掲示宣伝に使われました。里山事務所にも貼ってあります。

●里山農園のササユリの開花間近です。

桜の開花は近年になく早くて季節の移りも早くなるのではと予想していました。ところが農園のササユリは昨年 6 月 2 日に開花確認をしています。2023 年の今年はいつものところのササユリの蕾は大きく膨らんできていますが、開花には至っていません。1 本に 5 つの蕾がついていますので、そろそろ開花するのではないかと思います。ササユリが開花すれば、それはそれは美しいものですが、明日には開花するであろう蕾から発せられる生命力は大変魅力を感じられます。ぜひ多くの皆さんにも感じ取っていただきたいものです。



●城陽市教育委員会からの魚とりの依頼 会場地の草刈り実施

玉水浜で魚とりの講習会を 6 月 10 日に城陽市教育委員会からの依頼を受けて、里山の会が開催の応援をする会場の整備を行いました。去年は時期が少し早かったのですが、水草の繁茂はそれほどではなかったのですが、今年は早くから現地の状況を見てみると、去年とは打って変わって繁茂が始まっていたので 26 日に第 1 回目の除草を森島、太田、有田、それに福井さんの 4 名で行っていただきました。梅雨入りが早くなって、台風 2 号の接近を考えると除草に取り掛かってよかったのではないのでしょうか。また会場への通路にも多くの草が伸びていたため、その除草も行っていただきました。玉水浜の様子が変わっていました。浜の中に深いタマリができていたので、当日は近づかないように指示をしておくことも必要だと分かりました。竹門先生が強調されてきた通り、川は川が作るとの通り様子が変わっていました。本流にもロープを張って危険個所には入らないようにする目印ロープも用意できました。